

釜石市の温室効果ガス削減目標

計画目標

温室効果ガス排出量

2030年に **55%削減**

釜石市は意欲的に対策を進めることによって温室効果ガスの排出量を2030年に2013年度比55%削減実現を目指します。

この目標を達成するための
当市の再生可能エネルギー発電設備導入目標は

長期目標

温室効果ガス排出量

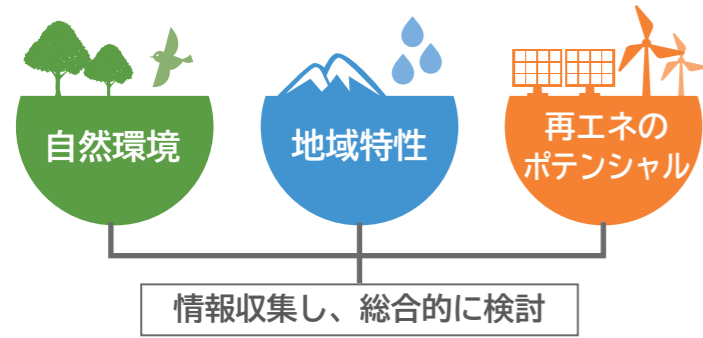
2050年に **実質ゼロ**

2050年にはゼロカーボンシティの実現を目指します。

39,180kW (2022.3時点) → 119,626kW (2030.3目標) **約3倍**

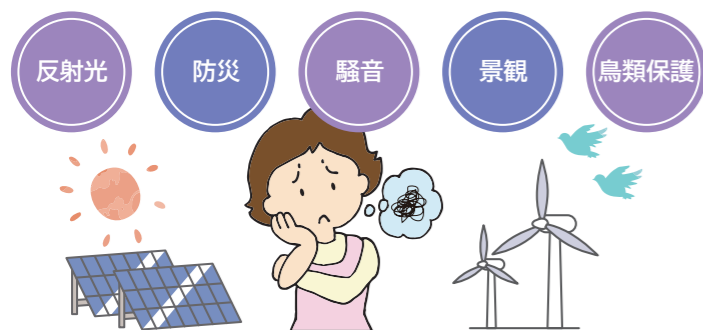
この目標を達成するために、効率よく再生可能エネルギー化を進めるのが喫緊の課題です。
そのために**ゾーニングは必要不可欠な取り組み**なのです。

ゾーニングとは何か



ゾーニングとは、自治体・地域住民・専門家が協力することで、地域が「納得、できる再生可能エネルギーの**導入適地を見える化**することです。また再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、自然環境を悪化させたり地域住民とのコミュニケーションが十分に取れていなかったり、様々なトラブルを招く場合があります。ゾーニングはこうした**問題を未然に防止**しつつ、再生可能エネルギーを効率的に普及拡大するために必要なのです。

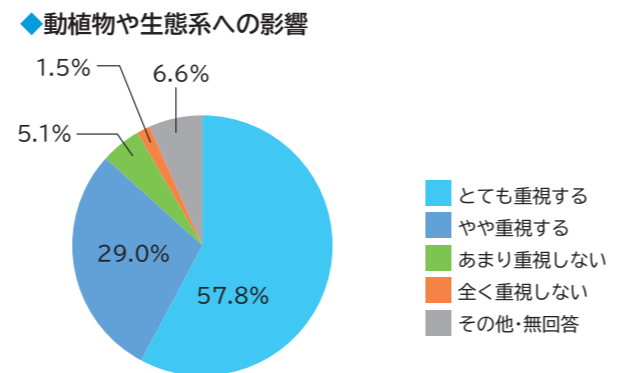
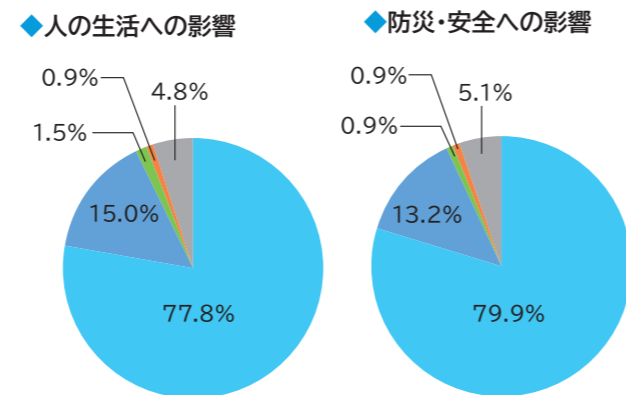
<再エネ導入時のトラブル例>



再生可能エネルギーに対する 釜石市民の意識は高い！

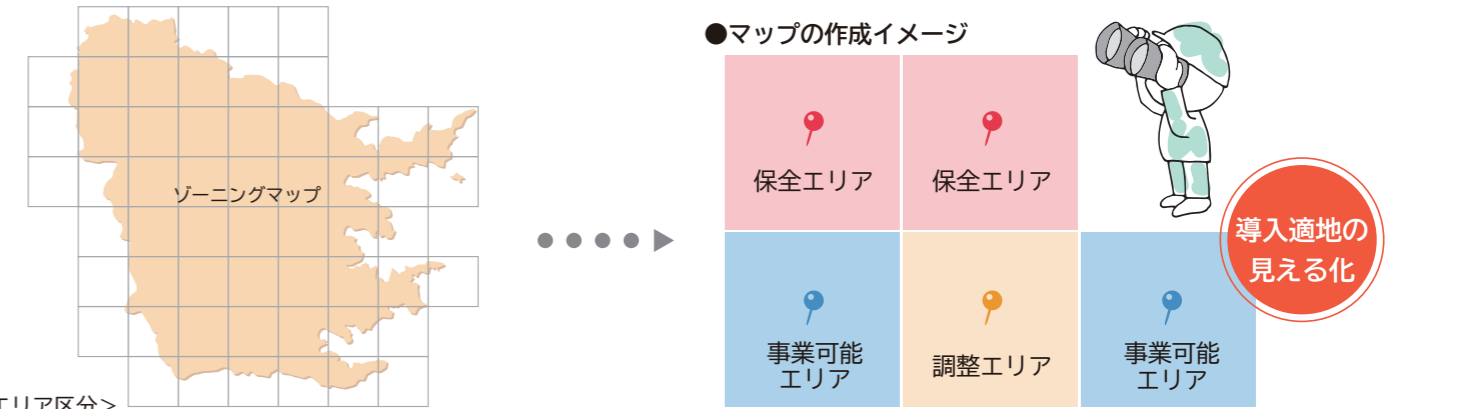
釜石市の再エネ導入可能エリアの可視化に向けた市民の意識調査をアンケート形式で行いました。釜石市民の再エネに対する関心や意識が高いことがわかります。

- 2023年9月15日～10月14日に実施
- 18歳以上の市民 1,000人に実施



ゾーニングマップの作成・公開

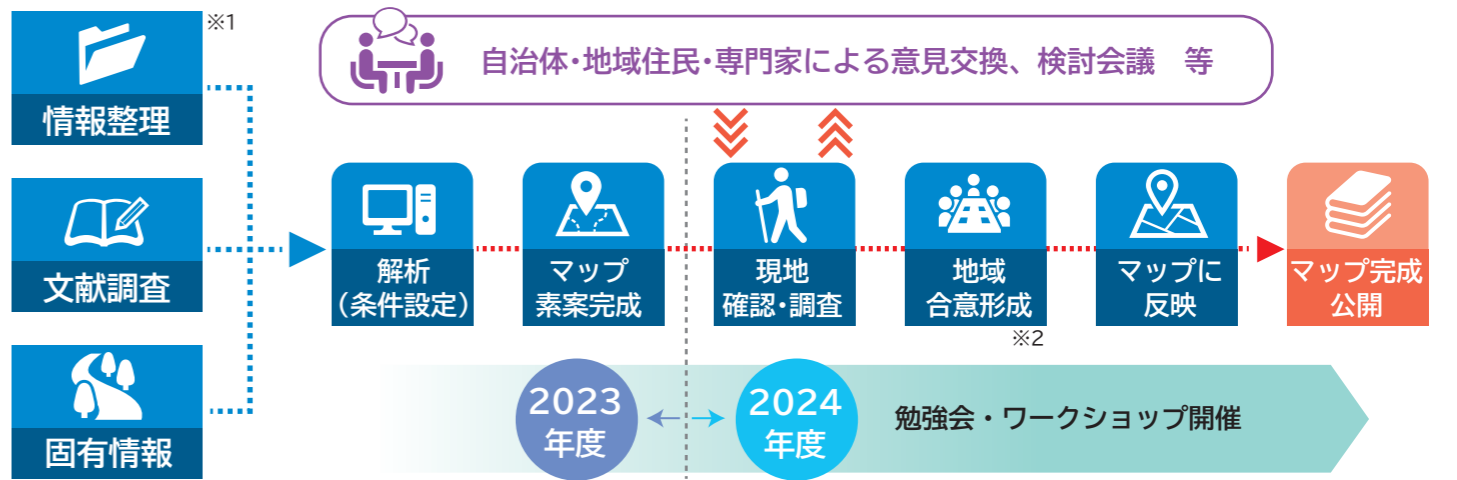
太陽光、陸上風力、洋上風力、小水力などの発電種別ごとにゾーニングマップを作成し、市ホームページなどで公開します。ゾーニングマップでは、保全エリアや導入適地(事業可能・調整エリア)を区分けします。事業者は、地域固有の情報を事前に把握し、再生可能エネルギー事業を効率的に進めることができます。



<エリア区分>

- **保全エリア** 自然環境・生態系・景観等の保護・保全の観点から、事業による開発を避けるべきエリア。
- **調整エリア** 保全エリア以外の範囲で、事業者が関係機関や地域と事業範囲等を調整しながら事業を実施できるエリア。
- **事業可能エリア** 保全エリア以外の範囲で、事業性があり、再生可能エネルギーの導入に向けたポテンシャルの高いエリア。

マップ作成までのステップ



※1 環境省のEADAS（環境アセスメントデータベース）およびREPOS（再生可能エネルギー情報提供システム）をベースに、文献情報や地域の固有情報を収集します。
※2 地域の文化やコミュニティの在り方などの要素をゾーニングに含めます。

期待される3つの効果

- 1 保全エリアを明確にすることで、地域の「大切な自然環境を守る」ことができる。
- 2 導入適地を「見える化」することで、再生可能エネルギーを「効率的に普及」させることができる。
- 3 地域住民と意見交換をすることで、再生可能エネルギーの導入における「トラブルを未然に防止」することができる。

